

## 野球を辞めていく選手について

高校野球の監督をやっている最もつらい事は部員が野球部を辞めていくことである。休み時間に選手が「話があるんですが」と職員室に来ると、「辞めたい」と言いに来たのかと身構えてしまうことがある。大体が私のところに話に来るときにはすでに本人なりに結論を出して、保護者とも話して了解を取っていることが多い。そうなるのであれば私に対しても最後通告であり、辞めるための一種の通過儀礼のようなものである。

相談であればいろいろ話しようがあるが、通告だと何か言ってもそれは虚しい時間となる。理由を聞けば「進路のために今の成績じゃダメでもっと勉強しなければいけないから」とか「体力的にきつい」「もっと自分の時間が欲しい」「別にもっとやりたいことがある」とか、そんなことが多い(野球部だけでなく、担任として他の部活を辞めたいという生徒からの話を聞いてもそんな理由が挙げられることが多い)。これは嘘では無いかもしれないがもっと別に本当の理由があることがほとんどだ。だから選手を説得しようとして、一つ一つの理由に対して「勉強は集中力だ」「もっと自分の時間を見直してみろ。携帯をいじってる時間を勉強すればいいじゃないか」「辞めて勉強すると言って本当に勉強した奴はいない」「野球で培った集中力が勉強に生きるんだ」「推薦を受けるのであれば部活を続けた方がいいんじゃないか」「怪我が治るまで休部でもいいぞ」「練習できないでいる時間の過ごし方で、その後飛躍できるんだ」「一時の感情で辞めてしまって、後になってからあの時やめなくて続ければよかったと後悔する奴がどれぐらいいるか」とか、言うことはいくらでも浮かんでくる。しかし、結論を出してしまっている選手にはこの言葉は全く響かない。

日ごろの様子から考えると、おそらく本当のところは「レギュラーになれそうにないし、練習しても上手くなれるという実感がない」だから「練習が楽しくない、時間が長く無駄に感じる」とか「チーム内の人間関係がうまくいっていない(先輩、同級生、監督などの指導者)」「チーム内で自分は孤立してしまっている。休憩時間なのに話す仲間がない」「仲間から嫌なことを言われた」または「言われているような気がする」などの野球と野球部に問題があるという原因によることもあるのだろう。

また野球部の外の人間関係(クラスやいわゆる地元の仲間)や女の子との付き合いに野球以上の魅力を感じてしまうこともある。

練習後、勉強もしないで、ごろごろしていると、親から「勉強しなさい」と言われ、「俺は練習で疲れているんだ」と答える。「だったら野球部やめなさい」と言われる。こんなやりとりが何度も続いている中で「だったら辞める」という考えを持つようになることもある。

野球部や学校とは直接関係がない家庭内の問題もある(金銭的なこと、両親の不

仲、または親と本人の不仲、弟や妹の面倒を見る必要があるなど)。そうなると自分が野球なんかやっていた方がいいのかと思うようになるのは当然のこと。

または本人にも理由がよくわからず、カウンセリング、精神科の医療に関わるようなことも最近では見られるようになった(昔もきっとあったのだろう)。

いずれにせよ、理由は1つではなく複合的なものであることも多く、その際にはもしかしたら本人も気づいていない本当の理由を突き止める必要がある。しかし、本当の理由がわかってもちちらとしてはどうしようもないことや、今となっては辞めさせてあげることが本人にとって1番良いと判断せざるをえないこともある。そんな選手には「野球部を辞めることは君にとって挫折ではない」「これからの生活で頑張っていけよ」と声をかけてやる。

しかし原因が、野球が上手くなる実感がない、練習がつまらないとかであったり、チームの中の人間関係だったりすればそれは指導者である自分にも責任がある。もっとワクワク感を持って練習に臨めるような指導ができなかったのか。チーム内の雰囲気を目を配って対応しなければいけなかったのではと反省する。そして、せっかく希望を持って入部してきたのに辞めたいと言わせてしまったことに対する責任の重さを感じ、自分自身もつらい思いをしてしまう。

選手が辞めると言い出す前に何か変化に気づくアンテナを張っておくこと、そして選手が辞める前に悩んだつらさの何割かを指導者は後追いの形ででも共有していくこと、これは指導者に課せられた避けることのできない責務であると最近感じるようになった。